

報告事項 キ

平成19年度「ひきこもり（傾向）の生徒への支援に関する研究調査」
について

平成19年度「ひきこもり（傾向）の生徒への支援に関する研究調査」について、
別紙のとおり報告します。

平成20年4月10日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

「ひきこもり（傾向）の生徒への支援に関する研究調査」について

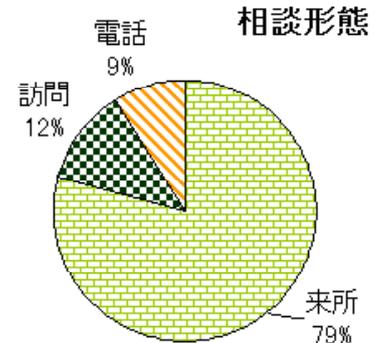
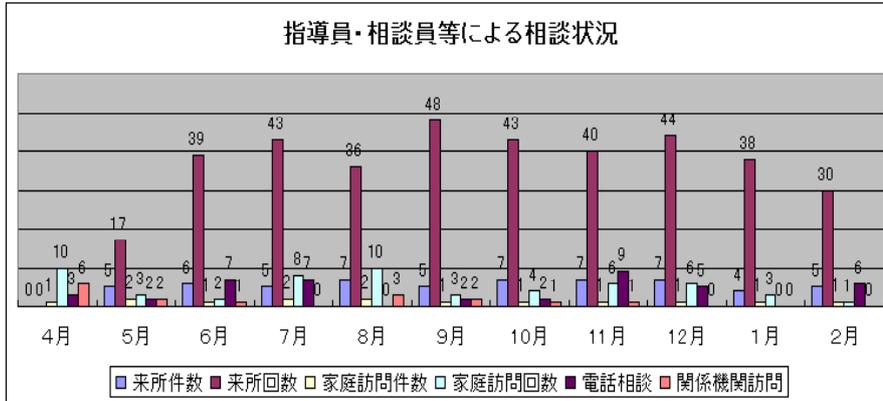
〔調査研究 平成19年度～平成21年度（3か年）中間まとめ〕

平成20年4月10日
教育センター

I ひきこもり（傾向）の者への支援のあり方

1 支援教室「ハートフル・ゆにっと」の相談状況（H19年4月～H20年2月）

（1）指導員・相談員等による相談状況

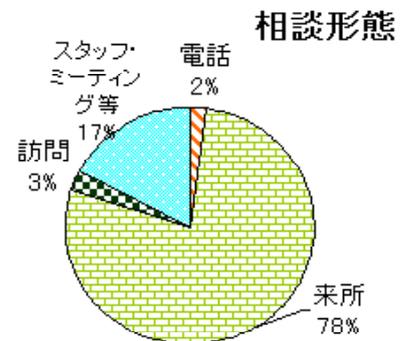
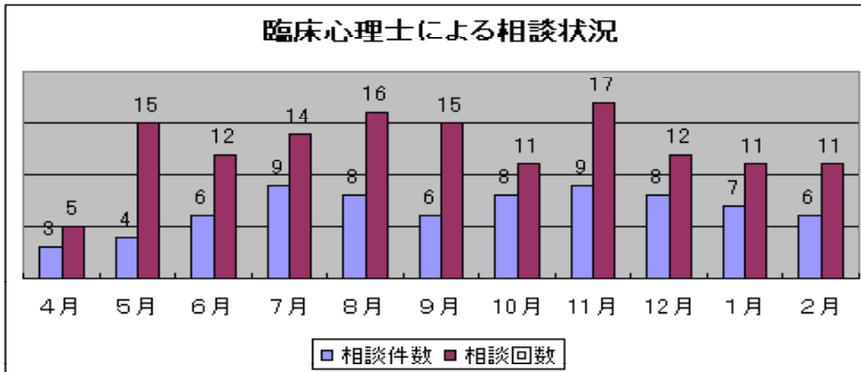


*支援教室を開設することで、定期または随時による来所を促すことができる。

【連携機関】

福祉相談センター 鳥取市保健センター 鳥取市社会福祉事務所
若者仕事プラザ 障害者職業センター
学校関係（利用者の在籍校、出身校） 事業所

（2）臨床心理士による相談状況

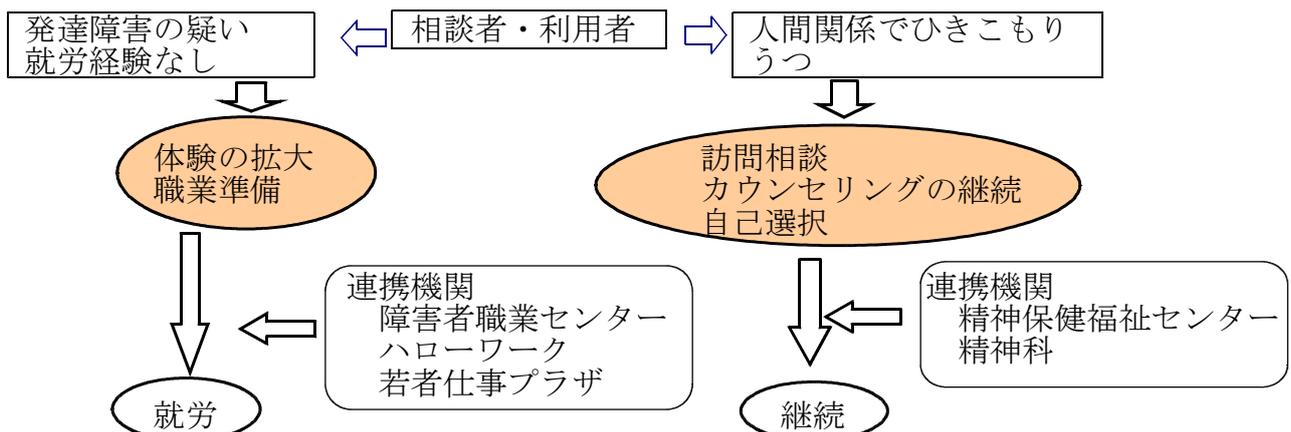


*利用者のカウンセリングの他に、支援会議の運営、スタッフ・ミーティング等でのアドバイス

2 支援のモデル（タイプ別）

（1）成人・在宅タイプ

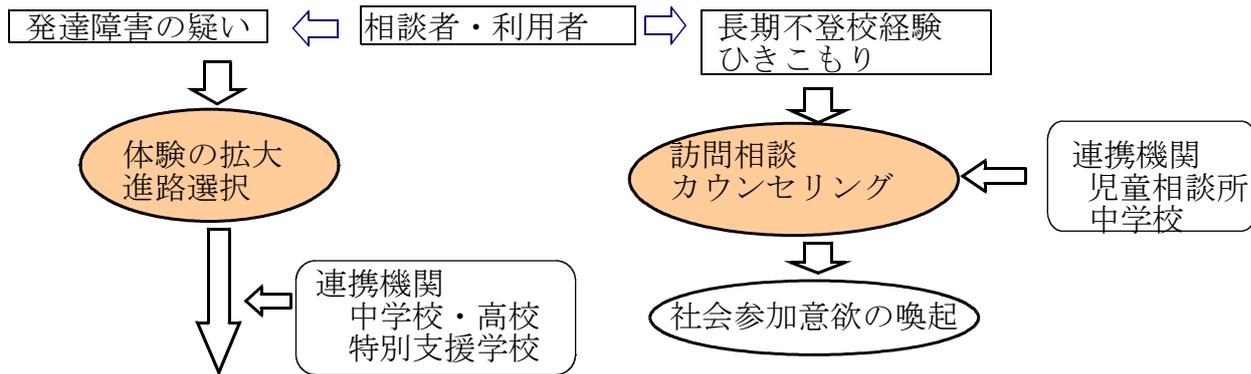
●社会参加意欲の向上 ●就労（福祉就労）



(2) 中学校卒業後・在宅タイプ

●生活リズムの調整

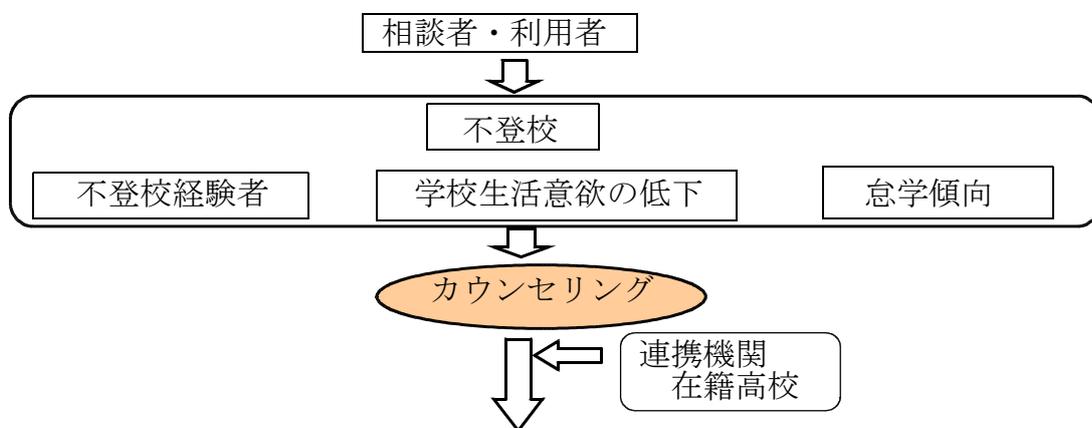
●進路選択意欲の喚起（進学、就労）



(3) 高校休学中タイプ

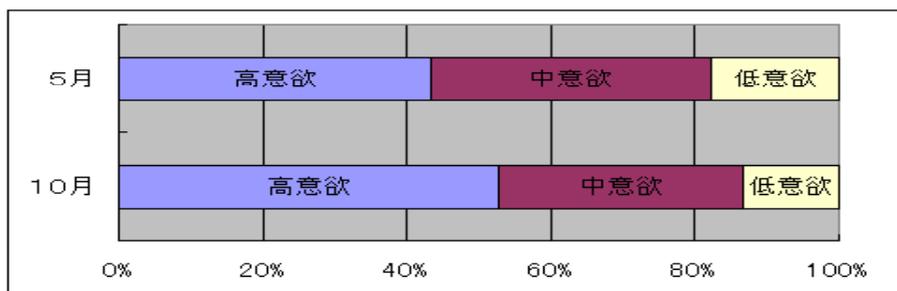
●生活リズムの調整

●学校復帰・進路選択（進路変更、就労）



II 中途退学の予防への取組

1 研究協力校の生徒（高校4校 3, 114名）の学校生活意欲の推移



学校生活意欲は上がっている。その中で低意欲の生徒への対応が必要である。

2 教育相談活動の展開（1）

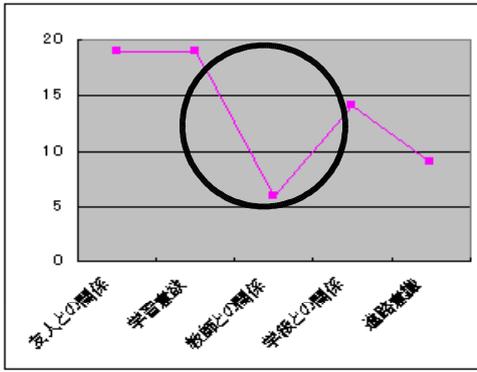
◆「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」から

やる気のあるクラスをつくるためのアンケート表

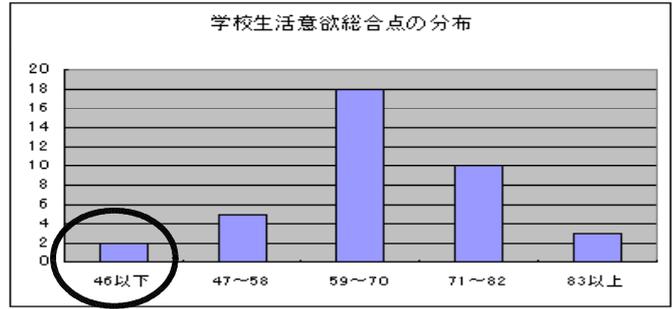
生徒	質問																				1~4	5~8	9~12	13~16	17~20	備考	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	友人との関係	学習意欲	教師との関係	学級との関係	進路意識		
1	5	5	4	5	5	5	4	5	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	4	4	19	19	16	16	19	89	
2	4	5	4	5	3	4	3	4	2	1	1	2	4	3	2	2	4	3	4	4	4	18	14	6	11	15	64
3	5	5	4	5	3	3	2	1	3	3	3	4	3	3	3	4	3	4	4	4	19	9	12	13	15	68	
4	3	3	3	3	4	3	4	3	3	3	3	4	3	4	3	5	3	4	4	4	12	14	12	14	16	68	
5	4	4	3	5	3	4	2	3	4	5	3	3	4	3	3	3	3	3	4	4	16	12	15	13	13	69	

①各項目に対する自己評価に注意。

5段階の「1」の項目をチェックし、生徒理解や支援の手がかりとする。

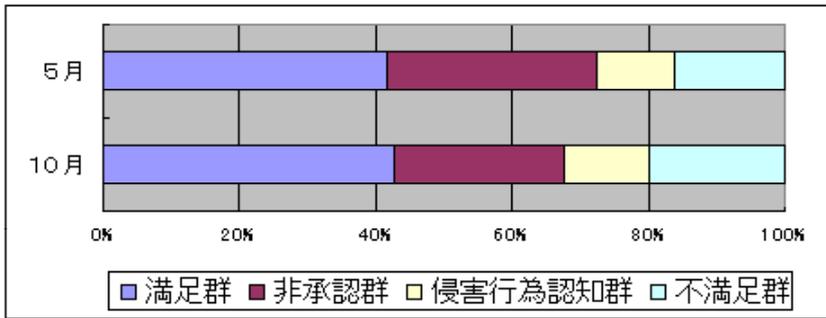


② 生徒一人一人の内容別のグラフの折れ線グラフの変動の大きい生徒
 ⇒ 不安定
 学校生活を円滑にするための手だてを示してくれている。



③ 総合点で特に低い生徒については、教育相談係と連携して、相談活動を始めます。

3 研究協力校の生徒の学級満足度の推移



満足群にあまり変容はないが、侵害行為認知群や不満足群が増えている。集団に対して良好に関わっていると感じている生徒と、集団への不適応感なり孤立感を深めている生徒と分かれてきている。

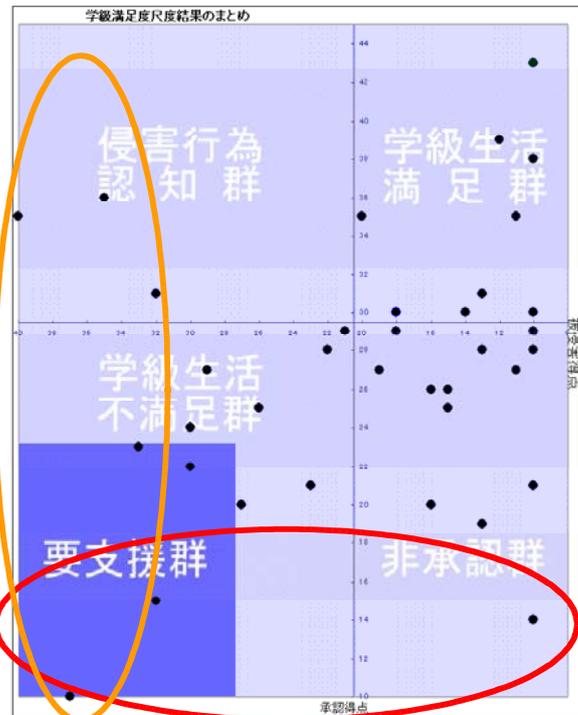
学校生活意欲はあっても、集団との関わりに課題がある傾向が見られる。

4 教育相談活動の展開（2）

◆ 「いごちのいいクラスをつくるためのアンケート」から

侵害行為認知群
 いじめや悪ふざけを受けているか、他の生徒とトラブルがある可能性が高い

学級生活不満足群
 耐えられないいじめや悪ふざけを受けていたり、非常に不安傾向が強い
要支援群の生徒は更にその傾向が強い



学級生活満足群
 学級内に自分の居場所があり学校生活を意欲的に送っている

非承認群
 いじめや悪ふざけを受けてはいないが学級内で認められることが少ない

- ① 承認得点の極端に低い生徒
- ② 被侵害得点の極端に高い生徒
- ③ 要支援群の生徒



教育相談活動の対象
 個別に面談を実施

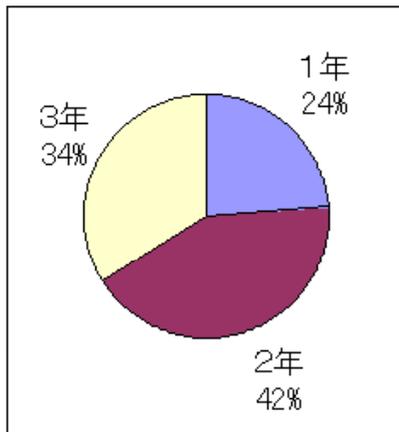
生徒	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	承認	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18	問19	問20	総得点
1	3	2	4	2	1	2	2	3	4	4	27	1	3	2	1	2	3	1	1	1	2	17
2	3	2	2	3	3	4	2	3	4	4	30	2	3	2	3	2	3	1	2	4	2	24
3	2	3	2	2	2	3	3	2	2	2	23	2	2	3	2	3	3	5	3	3	4	30
4	4	3	3	4	4	4	4	3	4	4	37	1	1	2	1	1	1	1	2	3	3	16
5	5	5	4	3	5	5	1	5	5	5	43	1	3	1	3	1	1	1	1	2	3	17
6	3	3	3	4	3	4	4	2	2	3	31	2	4	1	4	1	3	5	3	2	3	28

④問 11 から問 20 までのいじめに関する質問に対して「5」、「4」を選択した生徒に対する聞き取りを行う。

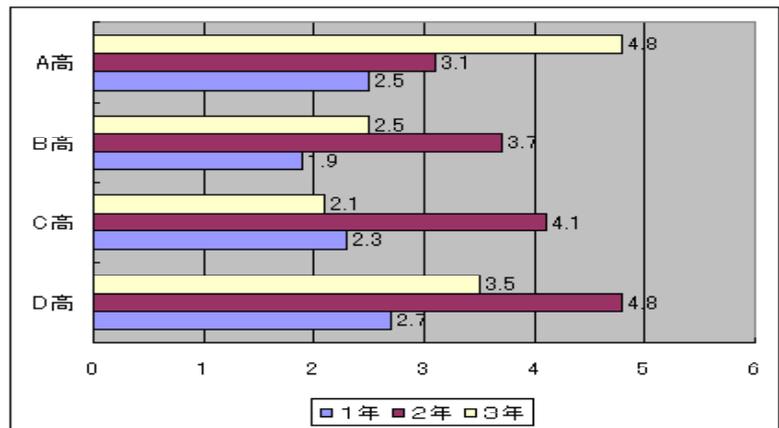
5 要支援群の生徒の状況（10月実施結果より）

要支援群の生徒数・・・100人（3，114人中）

【要支援群の生徒の内訳】



【要支援群の出現率】（数値は%）



要支援群の生徒が多いのは2年生で、4校中、3校において1、3年より出現率が高い。

【要支援群の生徒の様子】

100名の生徒の状況を聴き取り調査等をし、次のような結果を得た。

- * 要支援群の生徒の多くは、その学校で「おとなしく」「真面目な」生徒であり、一人で過ごすことの多い傾向にある。
- * 学校間で生徒の傾向の違いは、少ないようである。
- * 要支援群の生徒は、相談室や保健室で過ごす例が少ない。
- * 「特に問題はない」「特に心配はしていない」という高校の回答が多い。

今後、中退予防の視点として検証すること

- ◎ 「おとなしく」「真面目」な生徒が承認されにくい集団となっている可能性がある。
- ◎ 学力面や生徒指導上の問題がないと見なされている生徒の中には、集団との関わりや対人関係に課題があるために「おとなしく」「真面目」であるという印象を与えている。

6 成果と課題

- ひきこもり（傾向）の青少年への支援の手だてとして支援教室を開設した。件数としては多くはないが、福祉機関からの連携を望む声が増えている。今後は、学校関係だけでなく、医療機関や福祉機関への広報活動に力を入れたい。
- タイプ別の（1）（2）を支援の中核にする。
- 新たな研究協力校4校を選定する。
- 研究協力校の取組を「教育相談活動」から「学級集団づくり」や「個と集団との関わり」等についても広げていく。